

第 3 回品川区総合戦略策定委員会 議 事 概 要

日時：平成 27 年 10 月 30 日（木）14:00～16:00

場所：品川区役所 本庁舎 5 階第五委員会室

議事次第

1. 開会
2. 幹部職員の紹介
3. 委員長挨拶

■委員長

- ・ 第 3 回品川区総合戦略策定委員会を開催する。今回は計画の素案について、パブリックコメント前の最後の審議を行う。区民から様々な意見が出てくると思うが、本委員会でも様々な立場の人が参加しているので、この段階でできるだけ広く意見を取り入れ、見落としがないか、議論していきたい。
- ・ 本日は傍聴希望者がいる。第 1 回の委員会で定めた公開基準、取扱要領に従い、会議を公開する。

4. 品川区総合戦略素案（案）および品川区人口ビジョン素案（案）についての意見交換

＊事務局より資料 No. 3 および資料 No. 4 について説明

■委員長

- ・ 前回の委員会までは、人口推計をベースにしていたが、今回から品川区人口ビジョン素案（案）として内容を高めた。パブリックコメントには、品川区総合戦略素案（案）とともに、品川区人口ビジョン素案（案）を出すのか。

■事務局

- ・ パブリックコメントの対象は、品川区総合戦略素案（案）となる。ただし、総合戦略は人口ビジョンを受けて策定するため、品川区人口ビジョン素案（案）についても、参考資料として示す予定である。

■委員

- ・ 品川区総合戦略素案（案）の基本目標 3 と 4 は、話の流れからは順序が逆転しているのではないかと。基本目標 4 の数値目標は品川区世論調査で「品川区に住み続けたいと思う区民の割合」となっているが、基本目標 3 の数値目標は住み続けたいと思うと回答した区民のうち、その理由として「子どもが育てやすいと回答した区民」という話の流れであり、基本目標の順序に違和感がある。

品川区人口ビジョン素案（案）が「子育て世帯の定住促進」の次に「多様な世代の定住性の向上」について記載しているため、それと同じ順序に合わせたということか。

■事務局

- ・ 数値目標に着目すると、順序が逆転した印象を受けるのだろう。表現方法に工夫する。
- ・ 基本目標4は、様々な施策を行うことによって、住み続けたいと考えてもらえるという趣旨で、記載を最後にしている。

■委員

- ・ 基本目標の最後を定住に関する記載にして、話をまとめたいという流れがあることも理解できる。表現方法に工夫をしてほしい。

■委員長

- ・ 若い世代の結婚・出産等の記載の後に、定住の記載があるのは、国の総合戦略と同じ構成なのか。

■事務局

- ・ 国の総合戦略の流れを一定程度踏まえているが、完全に合わせようとしたわけではない。

■事務局

- ・ 国の総合戦略の「地方への新しいひとの流れをつくる」という前提は、品川区とは違うが、子どもを生み育てやすい環境を作るという目標は国も品川区も同じである。総合戦略のどこに力点を置くのかという問題はあるが、人口を増やすという目標を出し、最後に定住を持ってくる構成にした。

■委員長

- ・ 学識委員の打合せでは、数値目標の設定、方向性が難しいと話し合った。例えば、基本目標1では、昼夜間人口比率を上げることを数値目標にしているが、住み続けたい人を増やすには昼間人口を増やす目標は合わない。しかし、昼間人口を増やさないと、訪れる人が少ない魅力のないまちになる。

また、合計特殊出生率の数値目標は、現在、品川区は国の合計特殊出生率より低いいため、平成31年度の目標を現在の国の出生率である1.4に設定し、最低限でも1.4までは上げたいと示している。しかし、国は、2025年（平成37年）の希望出生率の目標を1.8に設定しており、品川区が1.4という目標値を設定することは根拠になるのかという議論もあるだろう。

他の数値目標を含め、こんな解釈ができるのではないかな等の意見はあるか。

■委員

- ・ 数値目標に、区内の製造業と情報通信業の付加価値額があるが、この業種に絞った理由、目標数値の設定根拠は。他の数値目標についても設定した根拠は何か。

■事務局

- ・ 品川区の製造業の付加価値は現在も高く、現状維持からさらに強めたいと考えた。また、情報通信業は、成長している分野でありさらに強めていきたいと考え、選択した。都道府県レベルで5%程度で上下していることを参考にし、5%増の目標値を設定した。

- ・ 昼夜間人口は、何十倍に増えればいいというものではないため、平均的な水準をとり、目標値を1.5倍にした。
- ・ 品川区内の宿泊施設への実宿泊者数、外国人実宿泊者数は、実績値から実現可能な人数を設定した。
- ・ 合計特殊出生率は、現在、品川区は国の合計特殊出生率より低いため、平成31年度の目標を現在の国の数値である1.43に近づけるという目標で、1.4に設定した。
- ・ 品川区に定住を希望する理由として、「こどもを育てやすい」、「こどもの教育環境が良い」と回答する区民の割合は、複数回答のアンケートであり現在の数値の倍に増やすのは難しいが、半数ぐらいの人が回答してくれるようにと考え設定した。

■委員

- ・ 昼夜間人口比率を設定しているが、特に夜間人口との比率を出す必要はないのではないか。昼間人口の増を目標にしたらどうか。
- ・ 情報通信業は勢いがあり打ち出したいのは理解できるが、製造業の付加価値額については、卸売業、小売業等の区内産業全体を含めた数値目標がいいのではないか。モノの価値を上げていくことを示したい。

■委員

- ・ 委員の意見のとおり、産業支援という視点では、業種が偏っているよりも、区内産業の全体の数値目標を立て、万遍なく後押ししたほうがよい。どの分野が今後成長するのかは分からないので、産業全体で見たほうがいいだろう。そのうえで、個別施策の中で情報通信業を後押しするのは良いと思う。

■委員

- ・ 品川区は就業支援が全国的に進んでいる。若者や女性の就業支援を数値目標に加えてもらえると、就業者の励みになる。
- ・ 連合品川の政策要望でも、若者就業体験事業に注目している。事業に参画する若者数が年々増えていることに着目し、現在の参加者数、正社員の登用数を、数値目標とするのはどうか。
- ・ 付加価値額、昼夜間人口比率とあるが、就労支援の具体的な数値を出したほうが、より分かりやすい。

■委員

- ・ 基本目標1は産業の活力を高め、魅力ある雇用の場を創出するということであり、この数値目標として何を設定すればいいのかが問題である。品川区は創業支援に力を入れているので、就業者数、企業数を数値目標にすると、総体的にまちの活力が把握できる。個別施策の数値目標にすると政策の規模が小さくなり、戦略にふさわしい数値が見えてこない。基本目標が5年後に進んでいることがわかる数値目標を設定したらどうか。

■事務局

- ・ 基本目標は、オール品川を表し全体的な指標であること、客観的・継続的に計測でき

るものであることを踏まえて、再検討する。

■委員

- ・ パブリックコメントにかけるという前提で、初めて区民が見た時に分かりやすいだろうか。総合戦略は、少子高齢化が進む中、このまちの活力が将来どうなるかという問題意識から策定するものである。品川区人口ビジョン素案（案）の「めざすべき方向性の実現に向けて」と品川区総合戦略素案（案）で、項目が出てくる順番が違うので、順番を揃えることにより、品川区が何を一番の問題だと考え、解決したいと思っているのかが、分かりやすくなる。

■事務局

- ・ 分かりやすい記載が基本であり、施策の並べ方やストーリー性については、検討する。

■副委員長

- ・ 品川区は様々な特徴があり、何を中心に持ってくるのかが難しく、各委員の意見を聴きたい。

■委員

- ・ 商店街は、儲け云々というより、地域を守ることに力を入れている。住みやすいまちづくりをすれば、子どもも増えるだろう。
- ・ 商店街で一番力を入れていることは、子どもが楽しいまちであるということだ。祭りやイベントでは、子どもを中心とした内容で実施しており、多くの子どもが参加してくれている。この子どもたちを逃がさないで、将来のお客さんに繋げていく。商店街の立場からは、地域を守り、盛り上げることに、少子化対策にも繋がると考えている。
- ・ 品川区には保健師の新生児訪問という事業があるが、医師とは違ったアドバイスが受けられる。また、個別訪問は、簡単に出かけられない新生児を持つ家庭への施策として優れており、各家庭の環境に応じたアドバイスや相談ができ、新生児を育てる親の精神的な助けになっている。このような相談は、少子化対策、子どもを育てやすい環境づくりとしてこれからより重要となるのではないかな。

■副委員長

- ・ 施策の流れの落としどころは、住み続けたいまちということだが、その前にある施策とのつながりが見えず、バラバラに見えてしまう。雇用対策から子育て施策へのつながりが見えると、わかりやすくなる。

■委員長

- ・ 個々の施策の問題と施策の見せ方は、区別して考えなくてはいけない。先ほどの委員のような、商店街の活性化が子育ての活性化になるという話の流れが見えないので、その辺りに今日の議論は集中している。

■事務局

- ・ 総合戦略全体の整合性や流れについては、本日の議論を踏まえて再度検討する。数値目標と個別施策の関係性を全て分析的に出すことは難しい。

■委員

- ・ 事業所数、従業者数、雇用数が増えるという大きな括りで戦略の数値目標を立て、施策は個別に立てるとするのがいいのではないか。
- ・ 昼夜間人口比率が、産業を支える指標になっているかは分からないが、必要であれば掲載しても構わないと思う。
- ・ 出生率を全国平均の 1.43 に近づけたいという目標で、数値目標を 1.4 に設定するということだが、あくまでも目標値であり、1.43 でいいのではないか。

■委員長

- ・ 学識委員の打合せでも、出生率の数値目標は 1.43 ではどうだろうかという話があった。委員会としての意見として、数値目標は実現に向けて努力をするが、あまり極端にならない範囲で前向きな数値設定をするという方針でいいか。
- ・ 委員の賛成を得たので、このような方針で進める。

■委員

- ・ 品川区は住みやすいので、若者が住み続ければ人口は減らないだろう。子育て施策は、現在も行っているものであるが、広報が足りず知られていない。親育ちワークショップなどに参加してもらえれば、そこから様々なイベントを周知できる。

■委員長

- ・ 広報の方法については、今後も課題である。広報の話が出たので、パブリックコメントの方法について、事務局から説明をお願いしたい。

■事務局

- ・ 広報「しながわ」の 11 月 11 号にパブリックコメントを実施することを掲載する。素案は、地域センター等の区の主要施設に設置し、品川区のホームページにも掲載し、周知する。意見募集期間は、15 日間である。

■委員長

- ・ 広報紙には、総合戦略の内容も掲載するのか。

■事務局

- ・ 紙面の都合もあり、基本目標と策定に向けた考え方について掲載する。

■委員長

- ・ SNS での広報は行うのか。

■事務局

- ・ ツイッターで、パブリックコメントを行うことを周知する。

■委員

- ・ 「自殺予防対策の強化」の計画内容に講演会や予防啓発事業とあるが、自殺する人は講演会には行かないということを考えてほしい。この計画内容では品川区は自殺を考える人のことを他人事として考えていると思われるだろう。この計画内容、指標でいいのか。

■事務局

- ・ 自殺者が10年前に全国で3万人を超えたため、誰もが自殺に追い込まれない社会をつくることを目的として、国が自殺予防対策の大綱を策定した。品川区もこれを受け、自殺したくなる気持ちに気づき、予防する社会をつくるため、ゲートキーパー研修や講演会などの啓発を行っている。
- ・ 日本全体では、平成27年度までに人口10万人に対して20人以下にするという目標があるが、品川区は既に達成している。今後も限りなく自殺者をゼロにしていきたいが、平成26年度より少ない数値として、平成31年度の指標を15人とした。

■委員

- ・ 自殺を考えている人を止めるための啓発だとはわかるが、対象が社会人、学生によって人間関係の悩みも違うので、その辺りを考えてほしい。

■委員長

- ・ 計画内容が啓発事業で、指標が自殺率を低くすると数値で表すと冷たく感じるということか。計画内容にある「講演会等、予防啓発事業の充実」、「相談・支援者養成研修の実施」に参加し、自殺予防に取り組む人を増やすことを指標にすることも考えられる。

■委員

- ・ ゲートキーパー研修や自殺予防の講演会に参加しているが、とてもいい内容であり、多くの人に受けてもらいたい。実際に参加し携わっている立場からは、講演会による啓発を指標にすることを、冷たいとは思わない。

■委員

- ・ 自殺予防の啓発事業の内容を知っている人であれば、講演会の内容を想像できるだろうが、分かりやすく伝えるだけでも、講演会という文字を見た時の印象は違うと思う。

■副委員長

- ・ 平成31年度の指標が15人とあり、15人までは自殺をしても仕方ないと取られてしまうかもしれない。本来なら、自殺者はゼロにしたい。どういう意味で、指標を出すのかは検討が必要である。

■委員

- ・ 事業への参加者数を指標にするのはどうか。

■委員長

- ・ 委員は、どんな指標がいいと考えるか。

■委員

- ・ ゲートキーパー研修にどれくらい参加しているのかわからないが、参加者数が考えられる。

■事務局

- ・ 具体的な数値を出せる指標がないか検討する。

■委員

- ・ 女性や若者だけでなく、高齢者の力は地域の力であることを出してほしい。高齢者は社会から支えられているイメージがあるが、高齢者も現役で地域の役に立っていること、また活躍してほしいことを打ち出したい。

■委員

- ・ 高齢者の活躍について、取り上げてもらえると、活動している人の支えになる。高齢者クラブは、清掃活動や花を植えたりするほかにも様々な活動をしている。働くことが生きがいになっていることや地域に役立てる場所があることを記載してほしい。

■委員長

- ・ 基本目標 4 では、高齢者に限らずに区民の活動について記載しているが、高齢者についての記載の中では高齢者がサービスを受けるだけのように見えてしまうので、見せ方の問題であろう。

■委員長

- ・ パブリックコメント前に、色々な意見をいただいた。
- ・ パブリックコメント実施後、年末の答申まで時間が限られているが、学識委員と事務局で協議し、修正を行う。答申前には、パブリックコメントを反映した案を委員に示す予定である。

5. 今後のスケジュールについて

6. 閉会

以上